

新型コロナウイルス感染症の出現から1年余り。この間、誰もが経験したことのないこの未知なる課題に、人類はその叡智を結集し挑み続けています。

まだ、その出口がおぼろげな中、今、小中学校ではさまざまな我慢を余儀なくされた卒業生へのはなむけとして、「6年生を送る会」や「予餞会」など、例年以上に工夫を凝らした心あたたまる送別の会が催されています。子どもたちには、苦境に遭ってもそれを乗り越える柔軟性と順応力があり、一緒に立ち向かう仲間がいます。この卒業生たちが後輩たちの思いを糧に、未知の未来を切り拓く開拓者となってくれることを願ってやみません。

人は生まれたときから未知なる課題との遭遇の連続であり、常にそれを克服し、人生を作り上げています。そのよすがとなるのが教育であり、教育は課題に向かう知力と気力と体力を人々にもたらしてくれます。これからも人類は幾多の脅威に直面し、そして、必ずやそれを乗り越えていくはずです。

さて、教育委員会では第1次となる「白井市教育振興基本計画」を策定し、「白井市第2次教育大綱」に示された4つの柱である学校教育・家庭教育・社会教育・生涯学習の今後5年間の具体的な方針・施策・取り組みを掲げました。

学校教育では、子どもたちに未来を生き抜く力を、家庭教育では、親に学びの機会を、社会教育では、市民の学びの拠点を、そして、生涯学習では、市民の学習活動のサポートを基本方針とし、すべての教育の分野から市民の学びを振興します。

特に学校教育においては、「学習指導要領」の改訂や「GIGAスクール構想」の推進等、大きな変革期であり、このターニングポイントをチャンスと捉え、子どもの内面にスポットを当てた学びづくりや学校のICT化の推進に積極的に取り組む必要があります。

また、計画の第4章では、各分野に携わる方々の本市教育に対する思いを掲載させていただきました。みなさんの思いに一貫しているのは、“ふるさと白井”で子どもがより良く育ち、大人も学び続けるという思いです。

今後は計画に基づき、教育関係者はもとより、“オール白井”の力を結集し、すべての世代の学びの更なる充実・発展に努めてまいります。

結びに、計画の策定にあたり、貴重なご意見・ご提言いただきましたことに深く感謝を申し上げますとともに、今後とも、本市教育の充実・発展にご理解・ご協力をお願い申し上げます。

令和3年3月

白井市教育委員会教育長 井上 功